

# 指導と評価の一体化による授業改善

子ども一人一人に学習指導要領が示す資質・能力を育成するためには、各教科の目標に照らして、その実現状況を領域・観点ごとに適切に評価し、その結果を子どもの学習改善や教師の指導改善につなげるなど「指導と評価の一体化」を充実させることが重要です。

評価には、ペーパーテストやレポート、発表、話し合いなど多様な方法がありますが、本資料では、管内の各中学校で行われている定期テストに視点を当て、全体の傾向や改善策、好事例などを紹介します。



## I 国語の全体的な傾向

### ①設問について

・記述式問題は、全中学校で出題されており、そのうち66.7%の学校で文字数に関わる条件、66.7%の学校で文字数以外の条件（語句指定、文頭・文末指定、その他）を付していた。

※指導事項を意識した条件であるかどうか

### ②評価の観点について

・評価の観点を問題文に表示している学校は46.7%であった。

※解答用紙にのみ表示している場合も考えられる。

・知識・技能と考えられる問題の割合は、最多で問題数全体の83.3%であった。

※出題傾向に偏りが見られる。

### ③領域について

・「話すこと・聞くこと」に係る問題を出題している学校は2校であった。

・漢字を含む言語事項等の出題割合が最多で問題数全体の66.7%であり、平均は42.3%であった。

### ④その他

・出典を明記している学校は、20%に止まっている。

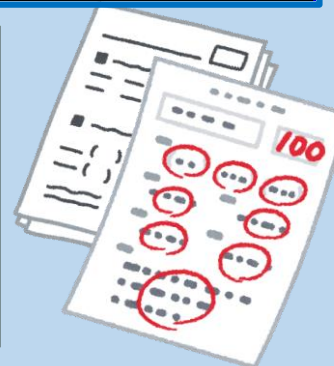
・「読むこと」では、指導事項の「構造と内容の把握」と考えられる出題が多く、「考えの形成、共有」に関わる出題は2校にとどまった。

・出題の設定として授業場面の「対話」を取り上げている出題が3校あった。

令和4年度・国語・第2学年			最多	最少	平均
問題数	設問	大問	7	2	5.4
		小問(総設問数)	63	35	52.5
		選択	35	1	11.1
		短答	51	18	36.1
		記述	9	1	5.3
		条件あり: 字数			66.7%
	条件あり: 字数以外			66.7%	
評価の観点	知識・技能		50	17	33.5
			83.3%	40.0%	63.8%
	思考・判断・表現		35	10	18.7
			60.0%	16.7%	35.6%
	問題文に表示あり				46.7%



授業（指導）でもテスト（評価）でも育成を目指す資質・能力を学習指導要領で確認することが重要です！



## II 数学の全体的な傾向

### ①設問について

・記述式問題は、80%の学校で出題されており、そのうち20%の学校で条件（考えの過程、理由等）を付している。

### ②評価の観点について

・評価の観点が問題文に表示されている学校は80%であった。

※解答用紙にのみ表示している場合も考えられる。

・知識・技能と考えられる問題の割合は、最多で問題数全体の95.1%であった。

※出題傾向に偏りが見られる。

### ③領域について

・「数と式」に係る問題を出題している学校は1校であった。

※今回の出題範囲に「数と式」の単元はないが、定期テスト等で既習事項を振り返る機会を設定することも考えられる。

### ④その他

・出題の設定として授業場面の「対話」を取り上げている出題が2校あった。

・三角形の合同を活用した証明問題は、全て記述、穴埋めに分かれている。

※全国学力・学習状況調査における出題は、合同であることを活用した証明問題が多く、経年的に課題が見られる。

・全国学力・学習状況調査に類似した、誤りを指摘させる問題を出題した事例があった。

・問題の誤脱が明らかに多い学校が1校あった。

※作成者以外の教員が精査する機会等を設ける必要がある。

令和4年度・数学・第2学年			最多	最少	平均
問題数	設問	大問	16	2	9.9
		小問(総設問数)	54	30	41.1
		選択	10	0	1.6
		短答	52	25	38.1
		記述	3	0	20.0%
		条件あり			20.0%
評価の観点	知識・技能		45	15	27.1
			95.1%	48.4%	66.0%
	思考・判断・表現		22	2	14.0
			51.6%	4.9%	34.0%
	表示あり				80.0%

### Ⅲ 国語の改善点

- 問題作成に当たっては、評価の観点を意識している学校が多い一方で、どの指導事項を評価しようとしているか明確ではない問題が見られました。
- 特に、国語科の「読むこと」は、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」の指導事項で構成されますが、「考えの形成、共有」が出題の趣旨と考えられる問題は一部の学校に限られました。
- また、記述であれば全て「思考・判断・表現」というように、評価規準の「知識・技能」と「思考・判断・表現」を、出題者の感覚で分けていると考えられる状況もありました。
- 学習指導案において、単元で扱う指導事項を必ず明記するのと同じように、出題者として、どの指導事項をねらった問題かを強く意識して問題を作成しましょう。

#### 指導と評価の一体化に向けた評価問題の工夫

##### 評価問題を作成する際の2つの視点

###### □ 授業で育成を目指した資質・能力（指導事項）の定着を確認する問題を作成しているか。

- ・ 指導事項を確認する際には、「学習指導要領解説 国語編」の付録4が便利です。単元の指導計画を立てる際に、どの指導事項に基づいた言語活動とするかを明確にし、評価問題の作成においては、その定着を確認する問題を設定することが大切です。



###### □ 年間を通して、指導事項を偏りなく評価できるよう問題を作成しているか。

- ・ 国語科の指導内容は螺旋的・反復的に繰り返しながら資質・能力の定着を図ることを基本としていることから、年間を見通して当該単元の目標や単元の評価規準を設定することが重要です。特に「話すこと・聞くこと」は、定期テストや授業の発言、作品での評価等、多面的に評価することができるよう、評価計画を立てることが大切です。

#### さらに改善を進めるために

- ◆ 言語活動の具体の場面を想定した出題など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と定期テストとの関連を図り、児童生徒が授業で身に付けた資質・能力を振り返ることのできる問題を設定することが大切です。
- ◆ 「読むこと」における指導事項のうち「考えの形成、共有」に係る問題を、定期テストで意図的・計画的に出題するなど、全国学力・学習状況調査等の客観的な指標から課題の見られる指導事項を焦点化して指導し、評価することが大切です。

#### 管内の好事例：評価の観点を明確にした問題例

※平家物語を読んで、回答する設問 一〜八は省略

九. ※の会話について、中学生のタカさんとマサさんがペアワークしている会話です。( )に当てはまる語句を、沿って書きなさい。

タカさん…あのさ、「なんぢがためにはよい敵」って、おまえのためにいいこと？

マサさん…名のらなくても人に聞けばわかるっていうんだから有名なタカさん…あっ、大將軍ということは(十五字以内)ということだ。武士にとっては戦に出る目的のものね。

※徒然草(第五二段)を読んで、回答する設問 問一〜問六は省略

問七 — 線部③「先達はあらまほしきことなり」とあるが、意味を説明した上で、どのような場面でそう感じるのか、あなたの経験をふまえて書きなさい。

言語活動の具体の場面を想定した問題の設定により、単に覚えたことの再現を求めだけでなく、活用することを前提とした問い方ができます。

「読むこと」の指導事項における「考えの形成、共有」を意識した問題の設定

## IV 数学の改善点

- 大問全てで評価の観点を「思考・判断・表現」としているにもかかわらず、1つ1つの設問が「知識・技能」を問う問題になっているものが見られました。
- また、多くの学校で記述式の問題が出題されているものの、「事実・事柄の説明」、「方法・手順の説明」、「理由の説明」のどれに当たるのかが明確になっていない問題が見られました。
- 数学の授業づくりでは、問題解決の際に数学的に考えたことを説明することが大切であり、定期テストにおいては、このことを「思考・判断・表現」として評価することができるよう意識して問題を作成しましょう。

### 管内の好事例：「方法・手順の説明」を意図した問題例

(中略)

1～5→知識・技能 6～10→思考・判断・表現

8. Aさんは正十二角形の1つの内角の大きさを次のように求めた。

Aさんの考え

正十二角形の内角の和は、  
 $180^\circ \times (12 - 2) = 1800^\circ$   
したがって、1つの内角の大きさは、  
 $1800^\circ \div 12 = 150^\circ$

Aさんの考え方に対して、Bさんは多角形の外角の和を使って、この問題を解いた。Bさんの考え方にしたがって、正十二角形の1つの内角の大きさを求めなさい。ただし、求める過程も書くこと。(5点)

評価の観点を問題ごとに示すことにより、定期テスト全体で評価する観点の偏りがなくすることができるとともに、評価の内容を生徒にフィードバックする際に役立てることができます。

「理由の説明」、「方法・手順の説明」、「事柄の説明」のうち、「方法・手順の説明」を意識した問題の設定により、評価の観点を明確にしています。

また、出題の仕方について、「Aさんの考え方」をもとに、「Bさんの考え方」を解答させることにより、複数の考え方があることを意識させることができます。

### 指導と評価の一体化に向けた評価問題の工夫

評価問題を作成する際の2つの視点

□ 授業で学習（指導）したことを評価する問題となっているか。

- ・ 学校の定期テスト等は全国学力・学習状況調査を参考に評価の観点を明確にするとともに、授業との関連を図って作成することが大切です。

□ 定期テスト後のデータ活用について、指導改善の参考としているか。

- ・ 定期テスト等の結果を活用し、課題は何か、学級全体への対応が必要か、個別での対応をするかなど、指導の改善や生徒のフォローアップに結び付けることが大切です。

さらに改善を進めるために

◆ 記述式の問題について、「『～ならば（前提）、……になる（結論）。』という形で書きなさい」など、どのように説明するのか条件を示すことが大切です。

（参考）令和5年度全国学力・学習状況調査問題 大問6（3）⇒「事実・事柄の説明」

◆ 数学的活動の過程を示した「算数・数学の問題発見・解決の過程」に基づき、日常生活や数学の事象から問題を見いだす過程、解決を振り返って日常生活と関連付けて考える過程や統合的・発展的に考察する過程を意識した評価問題を取り入れることが大切です。



# 指導と評価の一体化を意識した校内研修

## 小学校の例



○ ある初任段階教員のつぶやき  
「この単元で育てたい資質・能力を考えて授業づくりを行ったのですが、授業で指導したことと、単元末で行うテストの内容が結び付いていない気がします...」

### 「指導と評価の一体化」に向けた校内研修の工夫

- ① **育てたい資質・能力を明確にした授業構想、学習指導案の作成**  
※この段階で、本単元の学習成果を評価するとしたらどのような問題を出題するのかを全国学力・学習状況調査の問題等を参考にしながら考えておくことが効果的です。  
→育てたい資質・能力をより明確にするため、単元の目標と育てたい資質・能力の関連を学習指導案に明記することも有効です。  
→指導案検討に参加した先生が評価問題を作成するなど、授業者の負担軽減を図る工夫も大切です。
- ② **育てたい資質・能力を明確にした授業実践**  
→単元のゴールを児童に示し、育てたい資質・能力に基づいて児童自身がどのような力が身に付いたかを確認することができるようにすることが大切です。
- ③ **本単元で育てたい資質・能力を意識した事後研修**  
→児童の学びの様子から、指導計画や評価規準に基づいた評価となっていたかを振り返ることが大切です。  
→事後研修において、参加者全員がリフレクションを行うなど、授業者だけでなく、学校全体の「指導と評価の一体化」の推進を図ることが大切です。

学校全体の「指導と評価の一体化」の改善に向けた取組を推進しましょう！

## 中学校の例



○ ある初任段階教員のつぶやき  
「他の教科の先生が、どのように思考・判断・表現を評価しているのかわからなくて、このやり方でよいのか不安です...」

### 学習評価に係る正当性、妥当性を高める校内研修の工夫

- ① **校内研修において、定期テストの案を持ち寄り、作成した問題が「知識・技能」、「思考・判断・表現」等のどの観点かを評価するかなどを協議**  
→学習指導要領の指導事項を踏まえた出題になっているか、また、その指導事項を授業でどのように指導してきたのかについて、作成者が説明することにより、出題の意図を明確にする必要があります。  
→選択式、短答式、記述式などの出題形式のバランスや採点基準等について適切かどうか、他教科の視点も踏まえ、学校全体で改善を図ることが大切です。
- ② **協議を踏まえて改善した定期テストを実施**  
→作成者は定期テストと日常的に授業で行っている評価との関連について明確にし、生徒に事前に説明することが大切です。
- ③ **定期テストの結果を踏まえた評価及び評定の方策についての事後研修**  
→日常の授業における評価と定期テストの結果をどのように観点別評価及び評定に反映させるかを協議し、学校全体で共通理解を図るとともに、保護者や生徒への説明を行うことが必要です。

説明責任を果たすために、評価の正当性や妥当性を組織的に確認しましょう！